

教育委員会だより

令和5年5月25日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

「子どもたちのために…」～市P連定期大会～

5月13日（土）に、令和5年度 多治見市PTA連合会の定期大会が執り行われました。役員・参加者はじめ、会場全体が“子どもたちのために”という熱気に包まれていました。講演会には、ドキュメンタリー映画『みんなの学校』で知られる大阪市立大空小学校初代校長の 木村 泰子 様をお迎えしました。「すべての子どもの学習権を保障する」という理念を掲げ、教職員と地域の協働によって成り得た学校運営の具体について、大阪弁でエネルギーに語って下さいました。参加者には保護者や学校関係者も多く、子どもの個性を磨き輝かせることのできる学校・地域の在り方について深く考えさせられる機会となりました。



令和5年度 多治見市PTA連合会
＜基本方針＞
「家庭・学校・地域の連携で
子どもたちの安心・安全を守る」
＜活動内容＞
◇地域や行政との連携（PTAからの発信）
◇単位PTA（育友会）間の情報共有
◇「令和 新家族の約束七か条」の推進
◇アフターコロナの活動の見直し

多治見の歴史探偵になろう！～土曜学習講座～

5月20日（土）は、教育研究所の主催で今年度第1回の土曜学習『わがまち多治見大好き講座』を実施しました。小・中学生に人気の講座であり、中学生がボランティアとして活躍できる場でもあります。今回は『下街道なぞときツアー・うなくんからのお手紙』と題し、訪れたポイントで出題されるクイズの答えをクロスワードパズルに書き入れながら、問題「多治見で700年前に活躍した人は誰でしょう？」を解き明かしていきました。参加者40人が10グループに分かれ、多治見観光ボランティアガイドのみなさんの案内でまち歩きを楽しみました。

観光ボランティアの方の説明を聞き逃さずすぐに答えを書き入れる子もいれば、大ヒントを与えてもらい「あっ、わかった！」と声を上げる子もいました。中学生ボランティアも幅広い学年の小学生を相手に、優しく声をかけたり手助けをしたりしてくれました。随所に見られるこんな温かい関わりも講座の魅力です。



今年度は全10講座を予定しています。より多くの小・中学生に参加してもらい、多治見のヒト・モノ・コトに触れ、多治見を好きになる機会にしていきたいと思います。

運動するって、楽しい！～ACPの活用～

ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）は、子どもの発達段階にに応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムです。本市においても『子どものよりよい習慣づくり推進たじみプラン』及び『運動習慣の向上事業計画』に基づき、積極的に導入を進めているところです。

5月22日（月）には、養正小学校が岐阜大学の 春日 晃章 教授をお招きし、2～4年生が体験しました。春日教授からは、運動する意義や効果、体に起こる変化などにも触れながら運動遊びを教えていただき、子どもたちは楽しく運動することができました。また、先生方も「指示は簡潔にしてたっぷり運動できるようにする」、「子どもたちをその気にさせる」、「簡単な運動から徐々に難易度を上げていく」など、運動遊びの指導のコツを学ぶことができました。



副教育長のひとりごと「地域を知る」

先日、買い物途中のこと。おそらくは出張で多治見を訪れ、電車待ちをしていると思われる二人の男性の会話が耳に入ってきました。「時間があって車で来ていたら、このお寺に行ってみたかった。」「お庭が美しいらしい。」「国宝が二つあるらしい。」「ちゃんと調べてから来ていれば…」スマホの画面を見せながらのお話でしたが、それが多治見の誇る名勝「虎渓山永保寺」であることは容易に分かりました。学校にいた時も、この4月の校長会・教頭会でも「ぜひ先生方に地域を知ってもらえるといいですね。」というお話をしました。せっかく多治見市の学校に勤務するのですから、市内や校区のステキな場所を知ること、地域の歴史や文化の中で育つ子どもたちへの教育に役立つと思うのです。